

Involvement in IL-31 and Oncostatin M on tissue remodeling and itch sensation of Vernal Keratoconjunctivitis

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 眞下, 圭太郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001971

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1802 号

Involvement in IL-31 and Oncostatin M on tissue remodeling and itch sensation of Vernal Keratoconjunctivitis

(春季カタルの組織修復と痒みにおける IL-31 および Oncostatin M の関与)

眞下 圭太郎 (ましも けいたろう)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、培養ヒト結膜上皮細胞及び春季カタル患者の巨大乳頭結膜組織を用いて、IL-31 および Oncostatin M (OSM) とアレルギー性結膜疾患との関連性を初めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。

IL-31 はアトピー性皮膚炎の痒みを惹起するサイトカインとして、OSM は炎症・線維化・修復・増殖など種々の機能を有することが報告されている。本研究において、培養ヒト結膜上皮細胞に二両体構造を持つ IL-31 受容体の IL-31RA 及び OSM receptor (OSMR) が存在していた。培養ヒト結膜上皮細胞に IL-31 や OSM を付加することで、IL-31 および OSM 受容体が刺激され伝達経路である STAT1 や STAT3 のリン酸化が認められた。さらに OSM の刺激により tissue remodeling に関与する遺伝子が増強された。また、春季カタル患者の巨大乳頭組織中の結膜上皮には IL-31 受容体を認め、かつ IL-31 及び OSM 産生細胞も存在していた。これらの結果により、痒み関連サイトカインである IL-31 が春季カタルにおける末梢のかゆみに、OSM が巨大乳頭結膜組織の remodeling に関与していると結論づけた。

実験方法および理論の展開は適切であり、それより導かれた結果・結論も明解である。本研究は、春季カタルを中心としたアレルギー性結膜疾患の痒みおよび組織修復の原因解明や治療方法開発のための基礎研究となり得る内容を含むと考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。